

高・大・一般 漢字（隸書）

石坂 雅彦

西嶽華山廟碑②

武皇

雅彦

（孝）武皇（帝）



西嶽華山廟碑は、前漢時代の自然を祠るしきたりに沿い、陝西省の五嶽の一つ西嶽を祠った故事に倣い、華嶽を掌った太守袁逢が荒廃した廟を修復したと言う。その時の記念碑として建てられたものである。

碑は地震により毀れてしまったが、一世紀程前に中国にて長垣本、華陰本、四明本の三種は印刷本にされている。また日本でも長垣本は印刷本にされている。現在我々が見ることができる拓は長垣本によるものが多い。これらにより八分隸の特色や趣は十分に鑑賞、学書できるものと思われる。

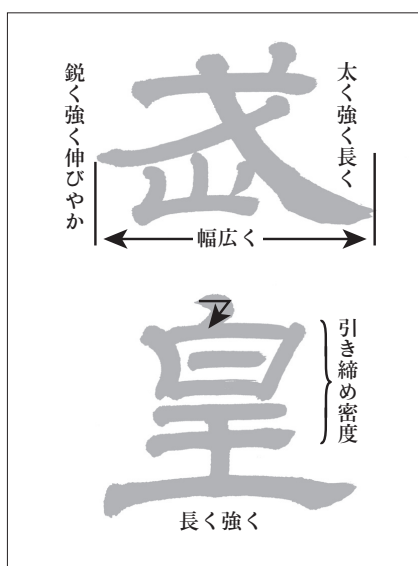
〈今月のワンポイント〉

波勢に乗せて波磔を確実に強く行なうと、八分隸の特徴や強さに接近できるように思います。

〈学習上の留意点〉

「武」：右払い波磔は太く強く長く。左払いは鋭く強く伸びやかに。この二画で幅広感を。

「皇」：一画目点は横に打ち左方へ。上部を引き締め密度を。最終画横画は思い切って長く強く。



高・大・一般 漢字

新(10級)から五段までは作品用紙として画仙紙ハツ切り(68cm×17.5cm)又は、画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。
六段から八段までは作品用紙として従来通り画仙紙半切(136cm×35cm)のみの出品です。

杉崎 光波

生逢盛世憂何事 家在青山道自尊

孫一元跋

〔釈文〕 生逢盛世憂何事 家在青山道自尊

〔出典〕 乙亥元日 明 孫一元

〔読み〕 生きて盛世に逢うに何事かを憂うる

家は青山に在り 道は自ら尊し

〔意味〕 生きて盛んな世に逢えて何を心配する

のか、家は青い山にある、人の道はお

のずと尊い。

〔解説〕

線の肥瘦を意識して構えると「一字の中の疎

密」が実現し、紙面に立体感が生まれます。

光明皇后の「杜家立成雑書要略」の文字を

参考にして、全体に大きく書くのではなく、余

白を活かす適度な大きさで書きながらも、自然

な運筆で大小の変化を加えてみましょう。

作品例中の記号について

- ・「↓」は、密になり墨盛りが多いところ
- ・「{ }」は疎になっているところ
- ・○で囲んだところは、幾分文字を小さく
- ・〔 〕は文字を大きく

・「傘」は、「傘」に通じて書かれる。

・「世」は後世の平仮名「せ」を彷彿とさせる。

(天来書院)

